

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市東永谷地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

担当地域は大久保最戸、永谷、永野地区となります。

- ① いずれも起伏のある地形であることから移動に困難をきたす住民がおり、住宅の立地によっては商店との距離があることから日常の買い物に支援が必要となったり、町内会館などのコミュニティの場に参加しにくくなる傾向があります。
- ② 地区内に学校が点在していることも特徴の一つであり、地域との学校の連携による行事や取組が進んでいますが、子どもの安全確保や孤食（生活困窮）など、地域による見守りの仕組みづくりが必要となりつつあります。
- ③ 港南区では、すべての地区に福祉ネットワークがあることも特徴であり、高齢者世帯や独居世帯、傷害や疾病のある住民などから寄せられるニーズの広がり増加に対応するための人材確保が急務です。
- ④ 地区単位での課題解決に向けた取組と併せて、自治会町内会など小地域において住民支えあいマップによる地域の把握や「見守り・支えあい」活動づくりが進んでいます。

これらを踏まえ、地域活動に関わる指定管理事業部門（地域活動交流・地域包括支援センター・生活支援体制整備）だけでなく、介護保険部門を含めケアプラザのすべての機能や事業を通じ、地域課題の把握や解決に向けた協働した取り組みを進めています。

(2) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- ① 窓口での相談、ケアプラザ事業、地域の会議、区役所や区社協の会議などで、個別のニーズや地域のニーズの情報収集を行いました。5職種会議などでニーズの共有や個別支援、地域支援について検討しました。
相談ケースへの対応にあたっては民生児童委員との情報共有により連携して対応しました。
- ② 子育てサロンの振り返りにて、ボランティアと一緒に参加者からの相談内容の共有などを行いました。1歳児学級や高齢者サロンでも、ケアプラザが生活の相談に対応する機関であることをPRしました。
- ③ 地域の出前講座にてケアプラザが相談機関であることを周知しました。広報誌でもケアプラザの相談機能について周知しました。
- ④ 1歳児学級終了後、ケアプラザ内で活動している既存の子育てサークルにつなげ、ほとんどの参加者が入会。地域での子育ての居場所として活動を支援することができました。
- ⑤ 障害児余暇「なつっこ」を区社協、他ケアプラザ、施設利用団体、地域ボランティアなどと協力のもと実施し、地域の民生委員、障害児の保護者との情報交換を行いました。

(3) 各事業の連携

- ① 5職種会議にて、担当地区の情報共有や地域支援の方向性の確認、検討をしました。助け合い活動の情報交換会、「住民支え合いマップ」の実施、支え合いマップの報告会、ご近所同士の支え合い講演会などを包括と地域交流部門、生活支援 CO、区社協と連携し実施しました。
- ② 5職種連携で東永谷の往診医の人や地域の活動者や民生委員やケアマネジャーや訪問看護などの方々と地域ケア会議として「最期を迎える懇談会」を実施。
- ③ 「あなたの夢かなえます！プロジェクト」「買い物夢ツアー」「夢の続きのお茶会」がそれぞれの2回実施できた。買い物夢ツアーに行った方の本人の介護予防やICFの視点で運営協議会の場で地域ケア会議を実施。
(たすけあい茶卓・たすけあい広場永谷・大久保最戸地区 SOS や民生委員、医師やPT、OTなどにも意見をもらいながら)
本人にもツアー行く前後の効果なども共有化して今後の展開についても共有化できました。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ① 年間を通じて欠員が生じることなく適正な人員配置を達成しました。
- ② 年度当初に、非常勤を含めて全職員を対象に、ケアプラザの意義や役割の確認、人権擁護や個人情報保護など職員としての基礎を確認する機会をつくりました。
- ③ 法人内部の研修として、苦情対応や各種専門職の研修として、プレゼンテーションや、地区診断、相談援助等を受講しました。
また、研修参加した職員のみならず、部署ごとに報告の場を設け、伝達研修を行いました。
- ④ 部門ごとの定例ミーティング（非常勤職員含む）や常勤職員会議等で、部門の現状や課題、職員の健康状態、ヒヤリハット事例の共有により風通しのよい職場づくりに取り組みました。
- ⑤ 人件費支出が前年度比で減額傾向にあり、効果的な執行が実現しています。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ① 大久保最戸地区では、障がい児者の親の会や事業所、地区社協と情報交換会を行い、つながりを深めました。
- ② 大久保最戸地区の福祉ネットワーク SOS ではその会議に参加し窓口として相談支援を行いました。
- ③ 住民支え合いマップを通して、地域の課題の発見やつながりづくりの構築を実施し、さらに会館開きにつながるよう支援しました。
- ④ 草取りなどの個別相談を助け合いグループ「茶卓」や福祉ネットワーク SOS に相談・連絡し、支援をしました。
- ⑤ 区社協との定例会議の開催、身近な地域の支え合いに向けて研修の共同開催、住民支え合いマップの推進を行いました。地区別計画の推進において、区役所、区社協と連携し支援しました。
- ⑥ こうなん障害児余暇「なつっこ」では、地区社協の会長はじめメンバーにボランティアとして参加をしてもらうことで、障害に対する理解を深めました。
- ⑦ [保育園・学校]
南高校とは、文化祭のケアプラザ出展や、料理部との活動でつながりを深めました。
下永谷小学校とは、総合の時間でケアプラザを紹介する時間もち、小学生にむけてケアプラザ、ボランティア等につき理解をはかり、その後デイサービスに来所し高齢者と交流をもちました。
相武山小学校とは、3年生総合の時間で、デイサービスを中心に高齢者理解を深めるため3回訪問を受け入れました。

- ⑧ [公共施設・地域の商店]
地域のコンビニと協議体を通じ情報交換をし、見守りにつながるよう理解を深めました。
- ⑨ [地域住民・地域団体]
さつき台自治会の住民方は、ふれあいまつりの準備、実施、片づけまでボランティアで参加しました。
大久保西女性部としてふれあいまつりにボランティアとして参加し、さつき台自治会住民とも交流を持ちました。

(6) 区行政との協働

- ① 高齢者虐待や権利擁護事業などの困難ケースについては、定例カンファレンスだけでなく、ケースの複雑性や緊急性を考慮し、支援方針の共有、役割分担を明確にし、適切な早期（初動）対応に努めました。
- ② 支援チーム会議やエリアミーティングの機会を通じて、2年目となる福祉保健計画（区域・地区別）の具体的取組に向けた支援をおこないました。
- ③ 区政運営方針を理解し、ひまわりホルダーや認知症サポーター養成講座等の取り組みを推進するとともに、平成29年11月からは区域事業として「見守り協力事業者の取組」を展開しています。
- ④ 生活困窮世帯の自立支援に向け、平成30年2月14日付けで横浜市生活困窮者自立支援制度における就労訓練事業としての認定を受けました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ① 地域に子育て親子が増えていること、地域での子育て支援を構築していくことを踏まえ、また、シニア男性の活躍の機会をつくるため、カフェ活動や連続講座を企画、実施しました。
- ② ギャラリーを通して、地域の方や地域の団体とつながりを深めました。
- ③ 南高校料理部と共催で小学生とのシフォンケーキづくり、シニア男性ボランティア「GSJ」とコラボしハロウィーンカフェを開きました。
- ④ 花植えボランティア「水仙クラブ」と協力し、「グリーンデイ」を実施しました。種まきの講習会も水仙クラブと共催で実施し子育て世代と交流を図りました。
- ⑤ 子育て支援ボランティアグループとともに1歳児学級を年2回開催しました。
- ⑥ 高齢者サロンでは、ケアプラザ利用団体が出演することで福祉保健活動を支援し、また、高齢者の仲間づくり・閉じこもり予防・遠出の外出機会の創出・参加者間の交流を深めるために日帰りバス旅行を実施しました。
- ⑦ エコプラザでは、実施時間を午前に設定することで小さいお子さんと保護者にも参加してもらいました。また、ゴーヤ交流会ではケアプラザボランティアグループ、地域ボランティアグループ、小学生など世代間交流を図りました。
- ⑧ 子育て支援では、サロンを開催し毎回ボランティアとともに運営を行っています。
- ⑨ 包括と共催で、介護予防講座「からだをつかって動いてみよう」を開催し、あらたに事業の企画運営のためのボランティア発掘を図りました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ① 利用団体にサロンやデイサービスでの活動披露や、シニア男性向け講座に講師として依頼をしました。
- ② エコプラザは、てまり、おはり箱、水仙クラブ、男性の個人ボランティアに加え、地域ボランティアと協力し実施しました。
- ③ ふれあいまつりは、南高校の生徒やシニア男性、大久保最戸自治会から女性部、防災部などボランティアとして参加があり実施することができました。
- ④ 南高校料理部と男性カフェボランティア「GSJ」がコラボし、カフェを開きました。
- ⑤ 子育て支援ボランティアグループとともに1歳児学級を企画・運営し、活躍しました。
- ⑥ 子育てサークルが、花植えボランティアと一緒に活動し、親子のボランティア活動のきっかけづくりができました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ① サブコーディネーターと新規ボランティアの対応方法や資料の説明の確認をし、ボランティアの受け入れについて職員内で共有しました。
- ② 区ボラセンとボランティアの情報交換を行い、ボランティアを受け入れました。
- ③ 包括からボランティア活動の情報発信の依頼や、担い手の情報交換を行いました。
- ④ 子育て支援ボランティアグループと1歳児学級を一緒に実施しました。
- ⑤ イラストが得意なボランティアに地域のイベントの看板作りや地区別計画のイラストを依頼しました。
- ⑥ 利用団体やボランティア団体のメンバー募集依頼を受け、ロビーに活動紹介のポスターを掲示しメンバーの募集の発信をしました。
- ⑦ 花植えボランティアは子どもから高齢者まで幅広い世代の方々が参加しました。
- ⑧ 男性カフェボランティア「GSJ」は地域の事業にカフェの提供のため出張を行い、また、他区からの要請でコーヒーの淹れ方を通しての交流を行いました。
- ⑨ エコプラザの打ち水では、小さいお子さんから高齢者まで様々な世代が参加し、活躍しました。
- ⑩ ふれあいまつりでは、高校生含め多くの地域の方がボランティアとして活動しました。
- ⑪ 広報紙、ブログなどでボランティア活動の紹介を行いました。
- ⑫ 広報紙でボランティア募集を行い、新たにボランティアが活動を開始しました。
- ⑬ セカンドライフ大学校では、区・区社協・区内ケアプラザとともにシニア男性が地域で活躍できるよう支援をしました。
- ⑭ 包括と共催で、介護予防講座「からだをつかって動いてみよう」を開催し、あらたに事業の企画運営のためのボランティア発掘を図りました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ① 五職種会議にて、身近な地域の支え合いの構築に向けて地域支援の検討をしました。
- ② 地区別計画推進に向けて、ボランティアの紹介を行いました。また、地域のお困りごとの相談を福祉ネットワークに相談し、ボランティアの調整を行いました。
- ③ ふれあいまつり、認知症サポーター養成講座、ひまわりホルダーの出前登録会などを包括と連携し実施しました。
- ④ エリアミーティングを行い、区役所、区社協と地域支援の方向性の確認、地域の情報共有を行いました。
- ⑤ ボランティアグループの運営会議、活動の振り返りの場に参加し、要望や意見の収集、情報交換を行いました。
- ⑥ ブログにボランティア活動や地域の活動などを掲載し発信しました。

- ⑦ エリアの自治会にチラシや広報誌の回覧や掲示をお願いし、地域に事業の周知を行いました。
- ⑧ 南高校の文化祭に出展し、ケアプラザのPRやボランティア活動の紹介ブースを実施しました。
- ⑨ 包括、生活支援COと連携し、「住民支え合いマップ」を通して地域の課題抽出に努め、解決に向けて地域住民主体の中で支援を行いました。
- ⑩ 掲示板・ラックを一般の方が見やすいようにととのえました。
- ⑪ 障害児余暇「なつっこ」の情報を小学校の特別支援学級の保護者会、また中学校の特別支援級授業に参加し、広報しました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- ① 地域包括支援センターの3職種、地域活動交流コーディネーターを含む5職種と毎月1回定例会議を設定し、各職種や地区担当が把握する小地域ごとのニーズや既存社会資源の把握をおこないました。
- ② 区役所と区社協、地域包括支援センターのカンファレンスに参加し、個別ケースの情報を共有したことで、「お買い物ツアー」等の新たな社会資源の開発及び定着を図りました。
- ③ 担当する3つの地区すべての担当者として、地区別の支援チーム会議に出席し、区役所、区社協、他の担当ケアプラザと地域課題や支援の方向性を共有し、地区社協（福祉ネットワーク）支援に繋げています。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

地域ケア会議のツールとして住民支え合いマップを推進し、住民主体で課題解決をしてゆけるよう支援しました。また、マップを作成して終了ではなく、そこから見えた課題を解決するにはどのようにすればいいか、マップを活用したネットワークの構築を検討しました。

最戸町友会

会長、民生委員、福祉ネットワークの方が参加し、全エリアのマップづくりが終了しました。マップを作成したことで、地域住民自身が横断的に町内を知ることができました。その結果、町内会館を開放する日を月に1回設け、住民同士の交流の場をつくりました。また、包丁研ぎボランティア「サイボンド」が結成されました。

桜台自治会

会長、民生委員、老人会の方が参加し、全班のマップづくりを取り組みました。

大久保中町内会

会長、民生委員、各種役員の方とお世話焼きさんが参加し、マップづくりを行いました。

(3) 連携・協議の場

- ① 5職種で連携し協議体を開催し、地域住民・商店・コンビニ・郵便局など多様な主体の連携による見守りについて共有・検討を行いました。港南区域での取り組みとなり、今後はケアプラザと多様な主体の具体的な連携方法について検討を行います。
- ② あなたの夢かなえますプロジェクトについて、実施の主体をケアプラザから地域へと移行することを目的に、協議体として地域ニーズに合った取り組み内容や運営について検討を行いました。
- ③ 住民支え合いマップから把握した気になる方・地域特徴・地域課題をもとに、見守り情報交換会や町内会館の開放事業へとつながりました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

① あなたの夢かなえますプロジェクト

「地域包括ケアシステム構築に向けた取組として、様々な事情で色々な事ができなくなり、普段あきらめていることを実現するプロジェクトを実施しました。

この取組は地域住民の支援だけではなく、NPOや民間事業者等との協働により具体的な社会資源開発に努めています。

<お買い物ツアー> (6月、10月)

地域貢献をしたいパナソニックのデイサービスの送迎車の空き時間を利用し、要支援の高齢者と、ボランティアを結びつけ実施しました。

<お食事会> (8月、12月)

お買い物ツアーに参加した方同士やボランティアとの交流のほか、新たに人との交流機会の少ない方に対するが外出へのきっかけづくりの企画会として、ケアプラザを会場とし送迎者活用による食事会を開催しました。

<外食ツアー> (2月)

住宅環境や本人の身体状況のほか、人との交流機会の少ない男性を対象に、外出のきっかけづくりと、その後のつながり作りを目的に、東永谷地域ケアプラザのデイサービスの送迎車を用い実施しました。

<お花見> (3月)

地域貢献をしたいツクイのデイサービスの送迎車の空き時間を利用、要支援の高齢者と、ボランティアを結びつけ実施しました。

② 協議体の開催 (6月、1月、3月)

地域住民・商店・コンビニ・郵便局など多様な主体の連携による地域での見守りの体制構築に向けて協議体を開催しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

エリア内地区民児協へ積極的に参加しました。

① 気軽に立ち寄れる相談窓口として、窓口を担当者名を表示することで、声のかけやすい雰囲気づくりを心がけました。

また、相談対応者が不在とならないよう相談窓口担当を職員間で分担し、分かりやすく丁寧な対応を心がけました。

助け合い情報交換会など地区社協等の情報交換会を開催しました。

② 助け合い情報交換会など地区社協等の情報交換会を開催しました。

③ 支え合いマップづくりを各地区で実施を行いました。

介護保険につながらない障害にも病院にもなかなかつながらない方の相談が多くあるのでマップで落としに見える化をして区高齢・障害支援担当職員とミーティングを実施し、一緒に支援方針の検討、連携を行いました。

④ 生活支援体制整備の一環として、高齢者の立ち寄る機関(郵便局・コンビニ・商店・交番・配達業者等)にインタビューを行いました。協議体の参加をしてネットワークを形成し、顔の見える関係づくりを行いました。

② 実態把握

地域で行われる各会議や事業、地域住民支え合いマップを地域住民と協働で実施（桜台、最戸、渡戸）して一緒に個別・地域ニーズや課題、強みの把握に努めました。把握した状況は五職種ミーティングなどを通じて包括・生活支援・地域活動交流部門との共有を行いました。

- ① 地域で行われる地区民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会定例会議、連合町内会会合等の会議や行事には、5職種で連携して参加しケアプラザの案内や情報提供を行い、顔の見える関係づくりに努めました。またそのような場を利用して情報収集を行い、実態把握に努めました。
- ② 相談者の状況に応じて、区役所や病院等各関係機関との連携を行いながら自宅への訪問など柔軟な対応を心がけました。
介護保険や地域ケアプラザ、認知症について病院との連携の取り方などを地域のサロンや自治会会合などで出前講座を実施し、地域の中での意識啓発を行うと同時に、地域の中での相談窓口としての周知を行いました。
- ③ 総合相談対応では住民の方からの声や、高齢の方の同居のご家族など、引きこもり、障害者、子どもなど、あらゆる世代の課題の共有や対応を他の専門機関と連携して行いました。またデータを地図にすることで地域の傾向を把握すると共に、実際の連携会議時に資料として活用しました。
- ④ 各事業のアンケート結果や運営協議会、地域包括支援センター職員等が参加した地域の様々な会議からいただいた意見を反映し、案内版の設置等環境面の改善や、情報提供の場を利用した案内等に活かしました。また、職員教育に反映するように努めました。
- ⑤ 支え合いマップづくりを地域に出向き実施して地域の実態把握に努めました。

③ 総合相談支援

- ① 気軽に立ち寄れる相談窓口として、窓口に担当者名を表示することで、声のかけやすい雰囲気づくりを心がけました。
- ② 地域包括3職種を中心に、地域交流、生活支援を含め、身近な相談場所であることを周知するためのチラシを作成しました。
相談対応者が不在にならないよう相談窓口担当を職員間で分担し、分かりやすく丁寧な対応を心がけました。
- ④ 総合相談の中から、引きこもり、障害、児童などのケースを地図に落とし、どのエリアにそういった相談が多いのかなどを包括職員で客観的に把握し、今後の支援や対応について、生活支援センター、区障害 CW、基幹相談支援センターと合同でカンファレンスを行いました。
- ⑤ 薬剤師向けに認知症サポーター養成講座行ったことで、実際に気になる方がいると包括支援センターに薬局から相談が入るなど連携し対応することが出来ました。
- ⑥ ごみ屋敷のケースで自治会や民生委員や助け合いグループの代表と本人と家族と区と包括とでケース会議を実施しました。
- ⑦ ケアプラザで開催している介護予防や高齢者サロン等の参加者の状況等を生活支援コーディネーターや地域交流コーディネーター等の他職種と情報交換を行うことにより、実態把握を行いました。
- ⑧ 自治会・町内会や民生委員児童委員協議会など地域の会議に積極的に参加しました。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ① 日々の総合相談の中で、成年後見制度や任意後見制度、あんしんセンター事業の必要と思われる対象者に対して制度の説明を行うと共に、区役所と連携しながら、各種制度の申し立て支援を行いました。
- ② 成年後見サポートネットワーク等の関係会議への参加や、個別に弁護士・司法書士等の専門職への相談を行い、連携を図りました。
- ③ 成年後見制度についての講座を2回に分け、1回目を地域住民向けの成年後見制度講座とし、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく老後を生きるために何が必要かを考える機会とし、講座を開催しました。2回目を障害当事者と家族向けに、横浜生活あんしんセンターと共催し、後見制度を中心に親亡きあとの権利擁護についてをテーマに講座を開催しました。

② 高齢者虐待への対応

高齢者虐待が疑われる相談については、速やかに行政に報告し、ご本人の保護だけではなく介護者支援の視点を持った対応に努めました。

- ① 居介ケアマネジャーからの高齢者虐待の疑いの通報があった場合に速やかに担当ケアマネジャーと訪問や実態調査や詳細なアセスメントを行い、区とも連携しながら支援者チームで対応策の検討を行いました。また家族の力(介護力、理解力、経済力、等々)についてもアセスメントを丁寧にする事で、本人含めた全体像を支援者側が共通理解することに努めました。また、医療面での情報を正確に把握することで、家族の対応方法や病気の理解はどうか、病気受容はどうか等の確認を行い、虐待を未然に防止できるように支援調整を行いました。
- ② 港南区社会福祉士分科会の虐待研修班でケアマネジャーやサービス事業所などに向けた高齢者虐待の対応について出前講座を行いました。
その講座の中で、包括支援センターに相談が出来るという周知をしたことで、実際にケアマネジャーと連携、協力することにつながりました。

③ 認知症

- ① 認知症高齢者を地域で見守る仕組みづくりとして、認知症サポーター養成講座を実施しました。実施先としては、地区センターと共催で地域の方向け、薬剤師会、子育て中の方向けに行いました。
港南区薬剤師会の研修の一環として行ったサポーター養成講座では、薬剤師の方に向けてケアプラザの機能や地域ケア会議などのことについても改めて周知をしました。実際に薬局からの相談がケアプラザに入り、対応につながるなど相談窓口としての周知にもつながりました。
3月に地域交流部門と共催で開催した子育て中の方向けのサポーター養成講座では、地域のボランティアの方にも協力してもらって託児付きで行いました。
子育て、介護、ダブルケアに直面した方が集い、キャラバンメイトの方が入ることで自身の悩みや現状を吐き出す機会ともなりました。
- ② 講座実施の協力を頂くキャラバンメイトの方との講座開始前には打合せの時間を持ち、地域の中で認知症高齢者を支える取り組みについて意見交換もしながら当日の講座の流れについて確認を行いました。
- ③ 介護者の集いを月に1回開催し、現在の介護者のみならず、介護経験者も継続して参加して頂き、ピアカウンセリングや情報交換の場となる支援を行いました。
今年度はデイサービスに実際に見学に行き、今の介護保険サービスの実際を学ぶことが出来ました。
また、2月には福祉用具の方を招いて勉強会を行いました。

- ④ 港南区社福士分科会が主体として行った『若年性認知症のつらい みなとみな』を企画、実施を協力して行いました。
- ⑤ 若年性認知症の相談の方について、障害支援課の MSW、基幹相談支援センターと連携を取り、支援に取り組みました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ① 地域住民、関係機関等との連携推進支援
 - ・地域のサロン、地域の食事会、元気づくりステーション、ふれあいの日、などで健康相談、出前講座などを行い、状況確認を行い、広報誌ふれあいの丘による介護予防の普及啓発に努めました。
 - ・地域ケアプラザで元気体操の会というスリー A 主体の認知症予防の会の継続支援でボランティア講座のフォローアップ講座を行い支援しました。
地域ケアプラザ広報誌や自主事業、出前講座、地域の食事会や行事への参加等を通じて、介護保険制度や介護予防、権利擁護関係、認知症になっても暮らしやすいまちを目指した普及・啓発活動に引き続き取り組みました。
 - ・地区民児協や地区社協定例会、連合町内会など地域包括支援センター3 職種と生活支援コーディネーターと地域活動交流コーディネーターの 5 職種で連携・協力をしながら参加し、地域ニーズ把握等を行い、区役所、区社協等、関連機関とともに「助けあい活動情報交換会」や「住民支え合いマップ」等、課題解決に向けた取り組みを行いました。
- ① 「大久保・最戸地区」「永谷地区」「永野地区」の地区民児協や地区社協定例会議、連合、町内会会合等に 5 職種が連携・協力しながら参加し、住民主体での活動状況や活動上における課題等、地域のニーズを把握して関係機関とともに課題解決に向けた取り組みを行いました。
- ② 「港南区民生員・ケアマネジャー連絡票」について、随時、ケアマネジャーからの提出等を通じて、状況確認や実態把握を行いました。
- ③ 支え合いマップも個別ケースに、地域課題に対して最戸町友会の町内会館を一日開放など町会が住民に町内会に入ってよかったと思える町内会を目指したいという目標ができ、民生委員と友愛活動員の情報交換を実施予定。
- ④ 「看取り」を地域課題と位置づけ、「最期を迎えるための懇談会」を開催しました。平成 29 年度に開催した「看取りのシンポジウム」のアンケートにおいて、『自宅で最期を迎えたい』と希望する方が 70%という結果がでたことを受け、東永谷エリアの訪問医と地域活動者、民生委員、事業者を対象に、在宅で一人でも最期が迎えられるために必要なことは何か、高齢夫婦や家族の状況が違う場合など事例を使って説明し啓発を図りました。
- ⑤ ケアマネジャーやプランナーを対象としたヒアリングを通じて、既存制度やサービスでは充足できない生活ニーズをかなえる「あなたの夢かなえます！プロジェクト」として、「買い物夢ツアー」を実施しました。
その後利用者同士とボランティアと利用者の交流の目的として「お茶会」へ発展し、その後の事業者との連携による定期開催に繋がっている。
- ⑥ いわゆる「ごみ屋敷」問題の解決に向け、地域（自治会と助け合いと民生委員）と区役所との連携による個別ケース地域ケア会議を実施した。
その後、関連する家屋内の荷物の撤去に繋がっている。
- ⑦ 助け合い活動情報交換会を実施した。
平成 29 年度中に、新たに大久保最戸地区 SOS やたすけあい渡戸・サイボンドが生まれたことを受け実践報告と情報交換を目的に実施した。

② 医療・介護の連携推進支援

既存の「港南区医療機関情報シート」について、活用できるよう継続して周知を行いました。

また、情報の更新について主任ケアマネジャー分科会で今年度継続しております。

- ① 在宅医療等のその周辺領域に関する諸問題の研修と情報交換を行い、多職種間の連携強化「医福（いっぷく）ネット港南」を2回開催しました（今年度中に3回目の開催予定あり）。嚥下や高齢期の栄養（栄養士）皮膚疾患（医師）事例検討をまぜながら 医療知識の習得・向上のみならず、医療と福祉の顔の見える場として連携を深める機会となりました。
- ② 地域の医師とケアマネジャーとの連携がスムーズに図れるよう、施設協力医の健康相談日に合わせて「医師とケアマネの相談タイム」を月1回開催しました。
- ③ 協力医の提案で、区医師会との共催で医療連続講座を年間4回開催。包括エリアに限らず広く区内の開業医との連携協力が図られただけでなく、身近な疾病の予防に繋がる機会となりました。
- ④ 平成28年度に引き続き区内の開業医の協力を得て最期を迎えるための懇談会（第2部を地域ケア会議として）を実施でき、地域課題について検討できた。
- ⑤ 地域密着型サービス運営推進会議へ積極的に参加（年間11回）し、包括が把握する地域ニーズの提供をおこなうとともに、密接に相談し合える関係づくりを図りました。

③ ケアマネジャー支援

- ① 日常業務の中でケアマネジャーから個別ケース相談や支援困難事例等へのサポート等を行い、またケアマネジャー同士の連携推進や港南区全体のケアマネジメントの質の向上を図ることができるよう、取り組みました。
- ② ケース相談のあった場合の同行訪問や対応についてのカンファレンスを支援者側で検討する機会を作り、ケアマネジャー支援を行いました。
- ③ ケアマネサロンの開催
ケアマネジャーがケアマネジメントを実践するのに必要な情報の共有や精神的サポート、スキルアップ、相互の連携支援を目的として、月1回、年10回程度開催（予定）しました。港南区主任ケアマネジャー分科会全体で計画通り実施しました。
- ④ 新任・就労予定ケアマネジャーへの支援
港南区福祉保健センターと港南区主任ケアマネジャー分科会との共同企画として、上半期に「新任・就労予定ケアマネの為の施設見学会」を、下半期に「ケアマネジメント初級講座」を5日間実施しました。引き続き、主任ケアマネ分科会として支援を行っていきます。
- ⑤ 港南区ケアマネ連絡会への支援
港南区ケアマネ連絡会との情報共有を図り、ケアマネジャーの状況や課題を把握するとともに、ケアマネジャーが自ら必要なスキルを考え、スキルアップに向けた取り組みを行えるよう、必要な研修会の企画、実施に向けたサポートを9名の主任ケアマネジャーと協働で年6回行いました。
- ⑥ ケアマネジメント講座（中級編）
支援困難な事例のナラティブアプローチの実施の講師に迎え、港南区役所主催で包括主任ケアマネジャー分科会の共催で2回、実施しました。
- ⑦ 3月に介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防・生活支援サービス事業（横浜市訪問介護相当サービス・横浜市訪問型生活援助サービス）や例外給付などについて説明会を実施しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

個別ケースから地域の共通課題を含め、年間9回の地域ケア会議を開催しました。

- ① 個別ケース(1回)
近隣住民や民生委員、町内会役員の相談から、いわゆる「ごみ屋敷」問題の解決に向け、該当する自治会での地域ケア会議を開催しました。
- ② 支え合いマップ(6回)
最戸4回、桜台2回、渡戸のそれぞれ単会において、地域の自治会や民生委員や地域住民と支え合いマップを通じた、地域の課題、強みについての話し合い、解決に向けた行動や実践を行いました。
- ③ 包括エリア(2回)
 - ・「あなたの夢かなえます！プロジェクト」の「買い物夢ツアー」について、地域の理解を得るため、主体的な取り組みとするため、運営協議会の場を活用し、介護予防やICFの視点での地域ケア会議を実施した。
 - ・住み慣れた自宅で最期を迎えることができる地域づくり、システム構築を目的として地域ケア会議として、懇談会を開催しました。
平成29年度開催のシンポジウムで取り上げられた「独居でも自宅で最期を迎えることができるのか？」についても検討や協議をおこなうことができました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

《職員体制》

所長	1名	(常勤兼務)
管理者 主任ケアマネジャー	1名	(常勤兼務)
保健師等	1名	(常勤兼務)
社会福祉士	2名	(常勤兼務)
介護支援専門員	2名	(非常勤専従)

《目標》

○要支援1・2と認定された地域の高齢者に対し、本人ができることはできる限り行なうことを基本とし、また利用者の主体性を尊重した自立支援を目指したプラン作成で行動意欲を高め、家族等の協力を得ながら、自立した生活が維持できるように協働しました。また、総合事業対象者に対しても同様に、自立支援の視点で地域のインフォーマル資源を含めたケアプラン作成を行い誰もが安心して自分らしく暮らせることが実現できるような支援を行いました。

○委託契約を結んでいる居宅介護支援事業所との連携及び支援を随時行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 実費負担はありません

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①利用者本位のサービスに取り組みました。
- ②ご自身らしく生活できるよう十分に本人、家族と相談しつつ計画を立てました。
 - 利用者の自立に向けた目標志向型プランの作成に努めるため、地域の社会資源を活用し「包括的・継続的な地域生活支援」ができるよう、居宅介護支援事業所と協力をしていきました。
 - 高齢者自身が自ら意欲の向上を図れるような知識の提供、日常生活における取組について丁寧な説明と、利用者本人が生活上の課題と改善について気付いていただけるよう提案をしていきました。

- ③支援システムを活用し、事務作業を効率化していました。
- ④自主ケアプラン点検を定期的に行い、職員全員で自立支援に向けたよりよいケアプラン作成の為に研修を行っていました。

《利用者 実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
226	228	226	232	230	232
10月	11月	12月	1月	2月	3月
250	235	231	232	228	232

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

高齢者が住み慣れた身近な地域で介護予防を意識し、介護予防の具体的な取組みを始めるきっかけとなる機会を提供すること、日常生活の中で身体状況に応じた介護予防活動を実践できる高齢者が増える事を目的とし、健康づくりと仲間づくりを目指し、いずみプラザの集会室にて介護予防事業「若返り講座」全6回実施しました。いずみプラザの住民に限定することなく応募を行ったが、東永谷地域ケアプラザエリアの方は行きにくい立地の為、いずみプラザ住民以外の方の参加は少なかったが、いずみプラザ在住の参加者は継続したいとの希望が寄せられている。

地域で介護・認知症予防活動を実践する方も増えることや実践を支援する方も増えることなど、健康づくりと仲間づくりと共に、実践者育成を目指し「からだとあたまを知って動いてみよう」を実施しました。

新たなボランティアの募集したところ、8名の応募があった。平成30年度の介護予防事業にお誘いし、現存の事業や新規事業の担い手として期待できる。

5 その他

○20周年記念「感謝の集い」開催

平成9年6月の開所以来、20周年の節目を迎えたこと、開所以来地域の方々のサポートを受けながら管理運営をおこなってこれたことができたこと、に感謝の意を示すために活動者の交流会として「感謝のつどい」を開催しました。

○事業所としての社会貢献活動の促進

社会福祉法改正に伴う「社会福祉法人の地域における公益的な取組み」の実践として、通所介護事業で保有する送迎車両の活用による「買い物支援」、市生活困窮者就労訓練事業における事業者としての認定、などに取り組みました。

6 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

事故防止や快適な利用環境に向けて、地区センターと協働し設備の定期点検や破損個所の小破修繕をおこないました。

- 1 併設の地区センターと定例会議のなかで、建物・設備等の劣化状況や利用者からの要望等の共有を図り、具体的改善を図りました。

[例] 庭園灯改修、1階男女トイレドア補修、2階調理室ドア補修など

- 2 高齢者のみではなく様々な世代の方々が利用に備え、誰もが使いやすいよう整理整頓をおこなうとともに、経路・施設内案内図・施設の機能やサービス内容・注意喚起など見やすく、わかりやすい表示に変更しました。

- 3 委託契約に基づく施設管理、清掃業務が正常に遂行されているか確認するとともに、自主点検をおこないました。

- 4 利用者から話しかけていただきやすい関係（環境）づくりを行うとともに、施設内にご意見箱（2個）を設置し、常に利用者の声を施設運営に反映出来るよう取り組みました。

[平成 29 年度受付件数：1 件]

(2) 効率的な運営への取組について

指定管理者として公的な施設である地域ケアプラザの役割を認識し、限られた予算内で適正な運営を行うため、経費の削減、資源の有効活用に心がけ、光熱水費の削減に努めました。

- 1 法人のスケールメリットを活かし消耗品等の共同購入など経費削減に努めました。

- 2 不要箇所（時間帯）の適宜消灯や賞味期限間近の備蓄物資の有効活用、デイサービス入浴後の残り湯による植栽への水やりなど、経費節減や資源の再利用に取り組みました。

- 3 物品のリサイクル、ごみを出さない工夫等を職員全員で意識を持って実施しました。

(3) 苦情受付体制について

利用者個人の尊厳を尊重し、利用者の権利を擁護する仕組みとして苦情解決を位置づけ、サービスや事業の質の向上に向けて、取り組みました。

- 1 苦情受付担当者及び実務責任者を置き、館内にわかりやすく掲示しています。

- 2 職員一人ひとりが「苦情解決」に積極的に取り組み、サービスの質の向上に繋げていく事が出来るよう法人のマニュアルを職員会議等で共有しました。

[平成 29 年度受付件数：2 件]

- 3 法人内の他施設・他部署と苦情並びにその対応を共有することで、苦情の発生を未然に防ぐ意識の定着と環境改善に取り組みました。

- 4 法人内外で実施される「苦情対応」に関する研修に職員を参加させました。

[平成 29 参加講座数：3 回、職員数：3 名]

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

緊急時の体制を確立し、公の施設としての災害時の対応や防災・防犯の備えを行いました。

- 1 緊急対応マニュアルの見直しをおこない、全事業部門に配付しました。

- 2 消防署の立ち合いのもと避難誘導訓練を年 2 回実施し、併せて施設管理者対象の研修をおこないました。

[第 1 回：H30. 2. 8 避難誘導訓練]

[第 2 回：H30. 3. 19 消防隊員による応急対応訓練（AED 操作訓練など）]

- 3 有事に備える取組として、地域防災拠点が実施する訓練や連絡会に出席しました。

[永谷地区拠点連絡会、大久保最戸地区意見交換会など]

- 4 職員会議において、訪問時の対象者の安否確認方法や公用車の車両事故発生時の対応などについてマニュアルを参考に研修をおこないました。

(5) 事故防止への取組について

法人が運営する施設において発生した事故報告を踏まえ、当施設での発生防止に向けた検討・対応を行いました。

- 1 毎月の常勤会議において、労働環境を含めた施設内環境等についての検討をおこないました。
- 2 緊急対応マニュアルの見直しをおこない、全事業部門に配付しました。(再掲載)
- 3 毎月の常勤会議において、事故に至る前の事案についてもヒヤリハット事例として職で共有し、発生要因の検証及び防止策の検討をおこないました。
[ヒヤリハット推進月間の設定：H29.9.1～H29.9.30]
- 4 毎日の目視点検等で発見した劣化・破損個所を共有し、安全利用に向けた注意喚起をおこなうとともに、速やかに補修及び改修をおこないました。
[例] エレベータ扉挟まれ事故防止に向けて表示の掲示
調理室内ガスオープン、ゴムパッキン交換 など

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報の保護については、法改正の趣旨を正しく理解し、法人の「保有する個人情報の保護に関する規程」、「地域ケアプラザ等における個人情報の取扱基準」に基づき対応しました。

- 1 職員全体会議（H29.5.23）にて、非常勤職員を含む全職員を対象に研修を実施しました。
- 2 法人全体で、「個人情報持出簿」を見直し、より管理・確認しやすく工夫しました。
- 3 全職員を対象に個人情報取扱に関する自己点検（H30.2）をおこない、事故発生リスクの確認をおこないました。
- 3 事業や業務の変更に合わせて個人情報取扱業務概要説明書を見直し、窓口にて提示・説明できるよう整備しました。
- 4 守秘義務については、明文化したものを全職員はもとより、ボランティア・実習生等事業に携わる者すべてに配付、説明しました。

(7) 情報公開への取組について

法人の情報公開制度を基にして、適切に取り組みました。[公開請求件数：0件]

- 1 保有している文書（電磁的記録を含む）を対象とし、文書に個人のプライバシー情報や法令等の規制で公にすることが出来ない情報など、開示できないものを明確にします。
- 2 公開に際しては個人の不利益にならないこと、責任者の判断を得ること等を徹底しています。
- 3 閲覧用の決算書、個人情報取扱業務概要説明書、その他情報公開用資料を、窓口で常設し、施設概要、サービス内容等広報資料を見やすく、わかりやすく、常に最新の情報が提供されるよう更新しています。

(8) 人権啓発への取組について

横浜市の人権に関する指針や啓発に関する計画に準じて、職員に対する啓発に取り組みました。

- 1 職員全体会議（H29.5.23）にて、非常勤職員を含む全職員を対象に研修を実施しました。
- 2 法人が実施した管理職対象の人権研修へ参加し、人権意識の向上を図りました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

「エコプラザ」を目標に環境や資源に優しい運営を行いました。また、ごみを出さないよう努めるほか、分別を徹底し、環境破壊にならないよう取り組みました。

- 1 光熱水費の削減のため、未使用の部屋の消灯や節水に努めるとともに、必要最低限の電力消費に努めました。
- 2 室内温度の設定も夏は 28 度、冬は 20 度に設定を行い、「緑のカーテン」や通所介護事業で使用したお風呂の水や精製水等を活用した定期的な散水（打ち水）により節水に取り組みました。 [年間削減実績：334 m³]

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

所長	1名	(常勤兼務)
管理者 主任ケアマネジャー	1名	(常勤兼務)
保健師等	1名	(常勤兼務)
社会福祉士	2名	(常勤兼務)
介護支援専門員	2名	(非常勤専従)

《目標に対する成果等》

- 要支援1・2と認定された地域の高齢者に対し、本人ができることはできる限り行なうことを基本とし、また利用者の主体性を尊重した自立支援を目指したプラン作成で行動意欲を高め、家族等の協力を得ながら、自立した生活が維持できるように協働しました。また、総合事業対象者に対しても同様に、自立支援の視点で地域のインフォーマル資源を含めたケアプラン作成を行い誰もが安心して自分らしく暮らせることが実現できるような支援を行いました。
- 委託契約を結んでいる居宅介護支援事業所との連携及び支援を随時行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 実費負担はありません

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者本位のサービスに取り組みました。
- ご自身らしく生活できるよう十分に本人、家族と相談しながら計画を立てました。
- 利用者の自立に向けた目標志向型プランの作成に努めるため、地域の社会資源を活用し「包括的・継続的な地域生活支援」ができるよう、居宅介護支援事業所と協力をしていきました。
- 高齢者自身が自ら意欲の向上を図れるような知識の提供、日常生活における取組について丁寧な説明と、利用者本人が生活上の課題と改善について気付いていただけるよう提案をしていきました。
- ③支援システムを活用し、事務作業を効率化していました。
- ④自主ケアプラン点検を定期的に行い、職員全員で自立支援に向けたよりよいケアプラン作成の為に研修を行っていました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
226	228	226	232	230	232
10月	11月	12月	1月	2月	3月
250	235	231	232	228	232

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤）
 介護支援専門員 7名（常勤兼務1名、非常勤6名）

《目標》

本会の活動理念に基づき、地域の社会資源として他部門と情報を共有し、地域住民の安心した生活が継続するよう積極的な姿勢で事業に取り組みました。

- 1 利用者の意思を尊重し心身の状況や環境等に応じて、可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活（要介護状態の予防、軽減又は悪化の防止等）ができることを目標に居宅サービス計画を作成しました。
- 2 関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、多様な事業者から総合的かつ効率的にサービスが提供されるように調整し、常に利用者の立場で公正中立な居宅サービス計画を作成しました。
- 3 介護支援専門員等の資質向上を図るため、採用時研修（採用後6ヶ月以内）、定期研修（年1回以上）等の機会を設け、業務体制を整備しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 利用者の負担金はありません。（ただし介護保険料滞納の場合は負担が発生します。）
- 担当者が、サービス提供地域をこえる地域に訪問・出張する必要がある場合には、その利用した公共交通機関の運賃実費の負担をお願いする場合があります。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者の個別性を尊重し、個々のニーズに沿ったサービス計画を作成し、インフォーマルサービスも含めた適切な情報提供をしました。
- 質の高いサービス提供ができるように支援体制を強化し、地域包括支援センター等関連機関との連携に努め、課題解決に積極的に取り組みました。
- 適時にケアマネジャーの空き情報を提供し、新規申し込みを受け入れました。
- 相談等を受ける中から把握した個別の課題を地域課題と捉え、必要なサービス開発に結びつけるための取り組みや連携を他部門と図りました。
- 居宅支援事業は地域の社会資源として最も身近な課題を把握する重要な役割を自覚して業務に努めました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
114	109	109	108	105	99
10月	11月	12月	1月	2月	3月
99	93	98	92	88	98

● 通所介護・認知症対応型通所介護

1 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 事業所は通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。
 (1)生活指導（相談援助等） (2)介護サービス (3)健康状態の確認
 (4)送迎 (5)給食 (6)入浴 (7)個別機能訓練

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

（通所介護）

● 1割負担分

（要介護1）	614円
（要介護2）	725円
（要介護3）	837円
（要介護4）	948円
（要介護5）	1,060円

● 食費負担 750円

・加算額

（入浴加算）	54円
（個別機能訓練加算Ⅱ）	60円
（サービス提供体制強化加算1）	20円
（中重度ケア体制加算）	49円
（介護職員処遇改善加算Ⅰ）	所定単位数に59／1000を乗じた単位数

● 2割負担分 （通所介護）

（要介護1）	1,227円
（要介護2）	1,450円
（要介護3）	1,673円
（要介護4）	1,896円
（要介護5）	2,119円

● 食費負担 750円

・加算額

（入浴加算）	108円
（個別機能訓練加算Ⅱ）	120円
（サービス提供体制強化加算1イ）	39円
（中重度ケア体制加算）	97円
（介護職員処遇改善加算Ⅰ）	所定単位数に59／1000を乗じた単位数

2 認知症対応型通所介護

● 1割負担分

（要介護1）	942円
（要介護2）	1043円
（要介護3）	1143円
（要介護4）	1244円
（要介護5）	1345円

● 食費負担 750円

・加算額

（入浴加算）	55円
（個別機能訓練加算Ⅱ）	30円
（サービス提供体制強化加算1イ）	7円
（介護職員処遇改善加算Ⅰ）	所定単位数に104／1000を乗じた単位数

- 2割負担分 (通所介護)
 - (要介護1) 1883円
 - (要介護2) 2085円
 - (要介護3) 2285円
 - (要介護4) 2487円
 - (要介護5) 2690円
 - 食費負担 750円
 - ・加算額
 - (入浴加算) 109円
 - (サービス提供体制強化加算1イ) 13円
 - (中重度ケア体制加算) 59円
- (介護職員処遇改善加算I) 所定単位数に104/1000を乗じた単位数

● 通常のレクリエーション以外に行う特別な行事 実費

- 《事業実施日数》 週7日
- 《提供時間》 10:15 ~ 15:20 (半角で入力 例 9:00~15:00)
- 《職員体制》
- 管理者 1名 (常勤)
 - 生活相談員 5名 (常勤・非常勤)
 - 看護師 5名 (非常勤・兼務)
 - 介護職員 14名 (非常勤)
 - 機能訓練指導員 5名 (非常勤・兼務)

《目標に対する成果等》

利用者ひとり一人の個別性を大切にした通所介護計画書を作成しました。
 また、社会福祉協議会が実施する通所介護として、地域の要介護者の要望に応えられる質の高いサービスの提供に努めました。
 地域で活動している団体、ボランティア等と連携し、多様化する利用者の希望に添えるサービスの提供の提供に努めました。

- ① 利用者の可能性を大切に「できる」が持続され、また、「今よりできた」につなげられる支援を目指しました。
- ② ヒヤリハットの事例の収集と検討を重ね、事故予防に努めました。
- ③ ボランティア等、地域との連携を深め、プログラム活動の充実と地域に開かれたデイサービスを目指しました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- 季節の行事、近隣の保育園や学校との交流、地域のボランティアによるレクリエーションを取り入れた多様な活動プログラムを提供しました。
- 介護や看護分野の実習生を積極的に受け入れ、人材育成に貢献しました。

《利用者実績(延べ人数)》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
736	759	788	780	765	753
10月	11月	12月	1月	2月	3月
765	782	695	634	610	650

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

●事業所は介護予防通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。

- (1) 生活指導(相談援助等) (2) 運動器機能向上訓練
(3) 健康状態の確認 (4) 送迎 (5) 給食 (6) 入浴

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

● 1割負担分

(要支援1)	1か月	1,766円
(要支援2)	1か月	3,621円

・加算額

(運動器機能向上加算)	242円
(サービス提供体制強化加算 要支援1イ)	78円
(サービス提供体制強化加算 要支援2イ)	155円
(介護職員処遇改善加算I)	所定単位数に59/1000を乗じた単位数

2割負担分

(要支援1)	1か月	3,531円
(要支援2)	1か月	7,241円

・加算額

(運動器機能向上加算)	483円
(サービス提供体制強化加算 要支援1イ)	155円
(サービス提供体制強化加算 要支援2イ)	309円
(介護職員処遇改善加算I)	所定単位数に59/1000を乗じた単位数

●食費負担 750円

●通常のレクリエーション以外に行う特別な行事 実費

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 10:15 ~ 15:20

《職員体制》

管理者	1名(常勤)
生活相談員	7名(常勤・非常勤)
看護師	5名(非常勤・兼務)
介護職員	14名(非常勤)
機能訓練指導員	5名(非常勤・兼務)

《目標》

利用者一人ひとりの個別性を大切に介護プランを作成しました。また、社会福祉協議会が実施する通所介護として、要支援者の要望に応えられる質の高いサービスの提供に努めました。地域で活動している団体・ボランティア等と連携し、多様化する利用者の希望に沿えるサービス提供に努めました。

- ① 利用者の可能性を大切に「できる」が継続され、また「今までよりもできた」につながられる支援を目指しました。
- ② ヒヤリハット事例の収集・検討を重ねて、事故予防に努めました。
- ③ ボランティア等地域との連携を深め、プログラム活動の充実と地域に開かれたデイサービスを目指しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

季節の行事の他、近隣の保育園や学校との交流、地域のボランティアによるプログラムや個別のレクリエーションなど、利用者の個別性に合わせ楽しんでいただけるようプログラムの多様化を図り、利用者に満足して頂けるサービス提供に努めました。

また、介護や看護に係わる学生の実習を積極的に受け入れ、人材の育成に貢献しました。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
18	13	16	15	16	18
10月	11月	12月	1月	2月	3月
17	15	16	14	17	19

平成29年度「東永谷地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)〈地域活動〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	15,311,380	1,634,687	16,946,067	16,946,067	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	0		0	90,300	△ 90,300	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	31,235	△ 31,235	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他 (指定管理料充当)	0		0	31,235	△ 31,235	
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)	3,587,500		3,587,500	3,587,500	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)	224,000		224,000	224,000	0	
収入合計	19,122,880	1,634,687	20,757,567	20,879,102	△ 121,535	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,811,000	0	10,811,000	11,586,760	△ 775,760	
本俸	8,364,838		8,364,838	8,965,070	△ 600,232	
社会保険料	627,768		627,768	672,814	△ 45,046	
手当計	1,745,128		1,745,128	1,870,352	△ 125,224	
健康診断費	12,008		12,008	12,870	△ 862	
勤労者福祉共済掛金	6,298		6,298	6,750	△ 452	ひやふれんど
退職給付引当金繰入額	54,960		54,960	58,904	△ 3,944	
その他	0		0	0	0	
事務費	1,363,000	0	1,363,000	966,448	396,552	
旅費	44,118		44,118	31,282	12,836	
消耗品費	417,563		417,563	296,077	121,486	
会議贈い費	0		0	0	0	
印刷製本費	55,014		55,014	39,008	16,006	
通信費	437,965		437,965	310,543	127,422	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	133,152		133,152	94,413	38,739	
図書購入費	17,080		17,080	12,111	4,969	
施設賠償責任保険	14,394		14,394	10,206	4,188	
職員等研修費	17,550		17,550	12,444	5,106	
振込手数料	914		914	648	266	
リース料	29,495		29,495	20,914	8,581	
手数料	3,050		3,050	2,163	887	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	192,705		192,705	136,639	56,066	
事業費	302,000	0	302,000	446,557	△ 144,557	
運営協議会経費	42,000		42,000	30,200	11,800	予算・指定額
指定管理料充当 事業	260,000		260,000	416,357	△ 156,357	
管理費	5,782,000	1,869,010	7,651,010	7,111,583	539,427	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算・指定額
光熱水費	2,593,380	0	2,593,380	3,189,733	△ 596,353	
電気料金				731,381		
ガス料金				1,093,270		
水道料金				1,365,082		
清掃費	643,797		643,797	791,839	△ 148,042	
修繕費	474,000	1,869,010	2,343,010	2,108,687	234,323	予算・指定額
機械警備費	44,972		44,972	55,313	△ 10,341	
設備保全費	1,649,128	0	1,649,128	798,818	850,310	
空調衛生設備保守	510,277		510,277	247,172	263,105	
消防設備保守	68,181		68,181	33,026	35,155	
電気設備保守	66,050		66,050	31,994	34,056	
害虫駆除清掃保守	18,465		18,465	8,944	9,521	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	986,155		986,155	477,682	508,473	
共益費	0		0	0	0	
その他	376,723		376,723	167,193	209,530	
公租公課	864,880	0	864,880	926,940	△ 62,060	
事業所税				0	0	この列は入力しない
消費税	864,880		864,880	926,940	△ 62,060	
印紙税				0	0	この列は入力しない
その他 ()				0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分				0	0	この列は入力しない
当該施設分				0	0	この列は入力しない
二一ス対応費				0	0	この列は入力しない
支出合計	19,122,880	1,869,010	20,991,890	21,038,288	△ 46,398	
差引	0	△ 234,323	△ 234,323	△ 159,186	△ 75,137	

自主事業費収入	260,000		260,000	0	260,000	予算・指定管理料を含む
自主事業費支出	260,000		260,000	416,357	△ 156,357	
自主事業収支	0	0	0	△ 416,357	416,357	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成29年度「東永谷地域ケアプラザ」
 収支予算書及び報告書(特別会計)<包括・介護予防・生活支援体制整備>

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	28,943,000	△ 419,292	28,523,708	28,523,708	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	531,901	6,320,901	6,320,901	0	横浜市より
利用料金収入					0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	42,200	△ 42,200	
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	0	0	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	1,112	△ 1,112	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理充当分)	0		0	1,112	△ 1,112	
その他(提案時控除 法人負担分)	1,917,000		1,917,000	1,917,000	0	
収入合計	36,800,000	112,609	36,912,609	36,955,921	△ 43,312	

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	32,689,000	0	32,689,000	32,197,412	491,588	
本俸	17,038,886		17,038,886	16,782,650	256,236	
社会保険料	4,167,724		4,167,724	4,105,049	62,675	
手当計	10,161,335		10,161,335	10,008,525	152,810	
健康診断費	33,552		33,552	33,047	505	
勤労者福祉共済掛金	32,742		32,742	32,250	492	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	1,254,761		1,254,761	1,235,891	18,870	
その他	0		0	0	0	
事務費	1,383,000	0	1,383,000	1,046,132	336,868	
旅費	98,133		98,133	74,230	23,903	
消耗品費	294,792		294,792	222,987	71,805	
会議購い費	0		0	0	0	
印刷製本費	52,796		52,796	39,936	12,860	
通信費	424,387		424,387	321,016	103,371	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	16,011		16,011	12,111	3,900	
施設賠償責任保険	29,328		29,328	22,184	7,144	
職員等研修費	21,570		21,570	16,316	5,254	
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	20,634		20,634	15,609	5,025	
手数料	582		582	440	142	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	424,767		424,767	321,303	103,464	
事業費	1,190,000	0	1,190,000	807,090	382,910	
協力医	630,000		630,000	273,000	357,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	100,000		100,000	81,870	18,130	
指定管理料充当自主事業(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	301,220	7,780	予算:指定額
管理費	1,538,000	0	1,538,000	1,393,579	144,421	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	935,774	0	935,774	847,903	87,871	
電気料金				194,417		
ガス料金				290,616		
水道料金				362,870		
清掃費	232,300		232,300	210,487	21,813	
修繕費	126,000		126,000	63,708	62,292	予算:指定額
機械警備費	16,227		16,227	14,703	1,524	
設備保全費	178,653	0	178,653	212,337	△ 33,684	
空調衛生設備保守	55,280		55,280	65,703	△ 10,423	
消防設備保守	7,386		7,386	8,778	△ 1,392	
電気設備保守	7,155		7,155	8,504	△ 1,349	
害虫駆除清掃保守	2,000		2,000	2,377	△ 377	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	106,832		106,832	126,975	△ 20,143	
共益費	0		0	0	0	
その他	49,046		49,046	44,441	4,605	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税				0	0	
消費税				0	0	
印紙税				0	0	
その他()				0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分				0	0	
当該施設分				0	0	
二一ス対応費				0	0	
支出合計	36,800,000	0	36,800,000	35,444,213	1,355,787	
差引	0	112,609	112,609	1,511,708	△ 1,399,099	

自主事業費収入	560,000			42,200		予算:指定管理料に含む
自主事業費支出	560,000			534,090		
自主事業収支	0			△ 491,890		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出	0			0		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			0		

平成 29年度 地域ケアプラザ収支報告書<介護保険事業分>

施設名: 東永谷地域ケアプラザ

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位: 千円)

	科目	介護予防支援	居宅介護支援	通所介護	認知症対応型 通所介護	予防通所介護・ 第1号通所介護
収入	介護保険収入	13,570,000	14,914,000	76,752,000	5,231,000	7,090,000
	その他	0	0	6,968,000	311,000	636,000
	介護予防ケアマネジメント 費	0	0	0	0	0
	事業・負担金収入	0	0	6,653,000	311,000	618,000
	その他	0	0	315,000	0	18,000
収入合計(A)		13,570,000	14,914,000	83,720,000	5,542,000	7,726,000
支出	人件費	5,633,000	9,770,000	45,667,000	6,774,000	4,242,000
	事務費	7,000	67,000	250,000	120,000	23,000
	事業費	76,000	1,084,000	17,766,000	1,046,000	1,650,000
	管理費	0	0	6,244,000	0	580,000
	その他	6,852,000	0	0		0
	利用者負担軽減額	0	0	0	0	0
	消費税	0	0	0	0	0
	介護予防プラン委託料	6,852,000	0	0	0	0
	その他					
支出合計(B)		12,568,000	10,921,000	69,927,000	7,940,000	6,495,000
収支 (A) - (B)		1,002,000	3,993,000	13,793,000	-2,398,000	1,231,000

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 **東永谷地域ケアプラザ**

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
ひよこらぶ・春	1歳児の親子	11,745	地活	1,245	10,500		6,000	5,745	
	延べ276名		包括						
	500円		生活						
高齢者サロン 「ひなたぼっこ」	65歳以上の方	69,681	地活	2,481	67,200			69,681	
	334名		包括						
	200円/回		生活						
南高校スイーツ交流	小学生	12,368	地活	9,768	2,600			12,368	
	42名		包括						
	100円		生活						
ふれあいまつり	どなたでも	45,292	地活	45,292	0			45,292	
	1,100名		包括						
			生活						
エコプラザ	どなたでも	12,816	地活	12,816				12,816	
	297名		包括						
	無料		生活						
南高祭イベント出展	どなたでも	34,291	地活	34,291				34,291	
			包括						
	無料		生活						
ひよこらぶ・秋	1歳児の親子	9,783	地活		10,000		3,000	6,783	
	延べ226名		包括						
	500円		生活						
ひなたぼっこバス旅行	65歳以上の方	36,345	地活	36,345				36,345	
	20名		包括						
	なし		生活						
20周年記念イベント 「感謝のつどい」		204,427	地活	170,163				41,261	128,899
			包括	34,264					34,264
			生活						
グリーンデイ	どなたでも	13,873	地活	13,873				13,873	
	182名		包括						
	無料		生活						
ひまわりホルダー	65歳以上の方	0	地活		42,200				
	162名		包括						
	300円		生活						
夢がかなうまちづくり シンポジウム	そなたでも	37,606	地活						
	85名		包括	37,606				37,606	
	無料		生活						
助けあい情報交換会	福祉ネットワーク関係者	10,000	地活	10,000			10,000		
	21名		包括						
	無料		生活						
夢かなえますプロジェクト	外出が困難な方	63,589	地活						
	69名		包括						
	無料		生活	63,589				63,589	

事業ごとに別紙に記載してください。

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育てサロン「めだか」	0歳～未就園児の親子を対象に、親同士や子ども同士が交流し、子育て支援に関する情報提供、子育ての悩み等を話し0歳～未就園児の親子を対象に、親同士や子ども同士が交流し、子育て支援に関する情報提供、子育ての悩み等を話し合える場としました。ボランティアの募集・育成も行いました。合える場としました。ボランティアの募集・育成も行いました。	毎月第4火曜日 10:00～11:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
パパサロン「くれよん」	0歳～未就園児の父子を対象に、父親同士や子ども同士が交流できる場を提供しました。ボランティアの募集・育成も行いました。	毎月第1土曜日 10:00～11:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
1歳児子育て学級「ひよこ・くらぶ」春・秋	1歳児の親子を対象に、親子のふれあいの場、学びの場として実施します。プログラムを通して、より良い親子関係を気づく一助とします。母親同士の交流も図りました。	5月9日・20日・30日・6月6日・20日 10月31日・11月7日・18日・21日・12月5日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ヘルスマイト協働事業「食育講座」（共催）	子育て中の親子を対象に、ヘルスマイトや参加者同士のふれあい交流を通じて健康作りの普及啓発を行うことを目的としました。	11月14日 10:00～12:00

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
南高校料理部・スイーツ交流!	地域の小学生を対象に、スイーツ作りを行い、南高校の料理部の生徒と地域の子どもの交流を目的とし実施しました。	8/4 13:30~15:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「ひなたぼっこ」	65歳以上の方を対象に、歌や体操などをおしての仲間づくりや、地域包括支援センターと協力して介護予防の啓発を行いました。会場利用団体の発表（ボランティア）の場としても活用しました。	毎月第3木曜日 13:30~15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「ひなたぼっこ」バス旅行	高齢者サロン「ひなたぼっこ」の参加者を対象に、日帰りのバス旅行を実施します。仲間づくり、閉じこもり予防、遠出の外出づくりの機会の創出、参加者間の交流を目的に実施しました。	9/28 (木)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふれあいカフェ「あんず」(共催)	ボランティアグループ「あんず」、障害者の事業所「ジャンプ」との協働により、パンや飲み物を販売します。メンバーの働く場や地域とのふれあいの場とし、地域への障害者理解・啓発の機会としました。	毎週木金曜日 11:00~14:00

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障害者地域作業所交流事業 ロビー販売(共催)	ケアプラザロビーでの障害者の事業所等の自主製品の販売をおしての地域との交流の場とし、地域への障害者理解・啓発の機会としました。 ①「そよかぜ南の家」②「フラワーロード」	①毎週火曜日 ②毎週水曜日

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
区社協協働事業 夏休み障害児余 暇支援事業「な つっこ」（共 催）	区社協や近隣地域ケアプラザ、特別支援学校と協働し、学 齢障害児を対象とし、地域のボランティアとのふれあいと 余暇の時間を提供するとともに、ボランティア育成を行いま した。	7/31（月） 10:00～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男性ボランティ ア手づくりカ フェ	男性ボランティアの仲間づくり・ボランティア育成、地域 の方々の交流の場の創出を目的にカフェを実施しました。	毎月第2月曜日 14:00～16:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
グリーンデイ	花植え等のボランティア活動を通して、仲間づくり、地域 参加を行うこと、ボランティア育成を目的に実施しまし た。種まき体験を行い、半分を個人の苗として、もう半分 をケアプラザの植え込みに植えることとして、花植えに関 わる地域の方を増やしました。また、花植えボランティア 「水仙クラブ」のPRの機会としました。	第3木曜日 9:30～11:30

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
配食ボランティ ア「てまり」 （共催）	配食ボランティア「てまり」と共催し、高齢者や障害者世 帯等へのお弁当の配達をとおして、ふれあいや見 守りを行いました。支援が必要な方については地域包括支 援センターと連携して対応しました。	毎週水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
配食ボランティ ア「てまり」会 食会（共催）	「てまり」の配食サービス利用者を対象に会食会を行い、 利用者やボランティアとの交流や、活動への要望をうかが う場としました。	春：5/10(水)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
手作りボラン ティア「おはり 箱」（共催）	高齢者や高齢者、介護者等を対象に、お直しの活動を行 いました。親子向けに針仕事のお手伝い等も行いました。	おはり箱活動日： 毎月第1・2・4水曜日

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おほり箱講座 「この木なんの木」 「四季の飾り」	作品作りをとおして、仲間づくりやボランティア育成のきっかけとしました。手づくりボランティア「おほり箱」のPRの機会にしました。	5月24日・31日・6月7日 2月14日・28日・3月7日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
布おもちゃ・車いす等の貸出	手作りの布おもちゃや車いす等の貸出をとおして、地域の育児支援や生活の支援を行いました。	毎日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域ケアプラザ・地区センター合同祭「ふれあいまつり」(第19回)	ボランティアや障害者団体等による出店、展示等をとおして地域住民の交流やふれあいの場、地域ケアプラザの周知、ボランティア発掘の機会とした。	11/11(土) 10:00~14:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
広報紙「ふれあいの丘」の発行	地域ケアプラザの役割の周知や福祉保健等に関する情報提供を行うために、広報紙「ふれあいの丘」を発行し、近隣町内会での回覧や関係団体への配布を行いました。	6回発行 (各回1,500部発行)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアコーナーギャラリー	ギャラリーを通じた地域の方々との交流を目的に、趣味サークルや個人にボランティアコーナーを貸し出しました。	・8月8日～11日 ・10月12日～13日 ・11月1日～2日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
東永谷地域エコプラザ	地域ケアプラザと住民が協働でエコ活動（グリーンカーテン・打ち水・ゴーヤ感謝祭・館内の節電等）に取り組み、特に乳幼児の親子等も含めて参加を呼びかけ世代間の交流につなげました。	・7月25日 ・7月31日 ・8月8日 ・28日

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地区別計画の推進の支援	大久保最戸地区の「ハートのあるまちづくり」の推進を支援しました。永谷・永野地区については、近隣の地域ケアプラザと協働で支援を行いました。	随時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
運営協議会	地域ケアプラザのよりよい運営を図るために運営協議会を開催し、地域の様々な声や要望を事業に反映出来るよう、委員の意見を十分に取り入れて開催しました。第2回目は地域ケア会議として実施しました。	6月 8日 11月 6日 3月 8日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「ふれあい倶楽部」	『健康マージャンを楽しむ会をつくりませんか』のOBが中心となり、平成23年4月自主化しました。地域ケアプラザは側面的に支援しました。 ※「ふれあい倶楽部」と共催	第1第2第4木曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
元気体操教室	認知症予防、健康づくり、ボランティア育成と交流を目的に体操教室を実施しました。	第4月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
東永谷地域ケアプラザブログ 「ながみちゃん日記」	ケアプラザの事業、地域の出来事などをブログにて発信しました。	毎月7回以上更新

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサークル交流会 福祉保健センター 子育て支援者 東永谷地域ケアプラザ共催	東永谷地域ケアプラザエリアで活動する子育てサークルが一同に集まって、情報交換をすることでサークル運営にかしました。各サークルの活動エリア内でよく利用する場所をマップに落としサークル以外の人たちにも共有をしました。運動会を開催し、その場を利用してサークルの活動をPRしました。	6月5日 10月2日 2月15日

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男のセカンドライフ 港南区社会福祉協議会 港南区役所 各区内ケアプラザ共催	定年退職後の男性、特にこれまで地域活動を行っていない方を主たるターゲットとして、仲間づくり、生きがい、社会貢献活動を行いながら、地域における活動の場ら所属の場を獲得し、自らの今後の生き方のヒントを見つける機会とするとともに将来的に港南区の地域活動を担う一因となるきっかけづくりとしました。	10月6日・13日 11月1日 11月30日・12月21日 1月18日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
南高祭ブース出展	ボランティア活動、地域活動、福祉教育でつながりがある南高校とのつながりをふかめました。 ボランティア活動の普及、ケアプラザの役割、地域活動についての情報を発信しました。	9月10日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
権利擁護講座	講座を2回に分け、1回目を地域住民向けの成年後見制度講座とし、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく老後を生きるために何が必要かを考える機会とし、講座を開催しました。2回目を障害当事者と家族向けに、横浜生活あんしんセンターと共催し、後見制度を中心に親亡きあとの権利擁護についてをテーマに講座を開催しました。	2月5日（月） 2月20日（火）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者のつどい「スワンの会」	家族等を現在介護している方・介護経験者を対象に、介護に関する悩みや情報交換をし日頃の介護疲れ等のリフレッシュを図ると共に、よりよい介護を行うことができるよう支援をしました。茶話会等を中心に行いつつ、介護保険・権利擁護等に関する知識の学習や老後の生活に関する勉強会などの企画を盛り込み、地域住民への情報発信を行い、参加者との交流を行いました。	毎月第3水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ひまわりホルダー出張登録会	登録することで病院や警察から地域ケアプラザに連絡が入り、身元から緊急連絡先、かかりつけ医などの情報が確認出来る、H28年度から始まったひまわりホルダーの登録にケアプラザに来所が難しい方のために各自治会単位で出張登録会を行いました。	随時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
出前福祉講座	生活にちょっと役立つ事柄をテーマに、地域の自治会・町内会館・ワークアップこうなんに出向いて開催しました。「介護保険」「成年後見制度」「地域ケアプラザについて」などの講座を寸劇を交えて開催し、地域住民が身近に福祉に触れ、理解を深める機会として実施しました。	4月、7月、3月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防事業： いずみプラザ 「若返り講座」	昨年度に引き続き、地域の場での介護予防事業として、いずみプラザにおいて地域の方々を対象に介護予防講座（運動、口腔、認知機能の内容）を行いました。	6月～10月 全6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
PT派遣担い手研修： 「からだとあたまを知って動いてみよう」	ケアプラザや地域の体操教室ボランティアの方々の担い手研修と、新たな担い手育成のために、理学療法士さんの視点や、3Aの視点の講座を実施し合わせてボランティア募集をした。	10月 全3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	認知症の理解を増やすことで認知症高齢者の住みやすい知育作りを目指し、地域や薬剤師会、子育て中の方などに向けて、認知症サポーター養成講座を実施しました。	7月、9月、3月